

# 1. 2020年度体制について

宇部興産バドミントン部 及び後援会 の2020年度体制は以下の通りになります。

**【バドミントン部】**

- ▽オーナー 玉田英生 (継続)
- ▽部長 長田恭司 (継続)
- ▽副部長 松尾光平 (継続 及び選手兼務)
- ▽監督 米元優樹 (継続)
- ▽主将 古川優太 (新任)
- ▽副主将 桐田和樹 (新任)

**【新任後援会役員】**

- ▽会長 末廣秀樹
- ▽副会長 安田耕司
- ▽副会長 吉川直樹
- ▽顧問 石川好夫
- ▽顧問 河野敬三
- ▽理事 峯石俊幸
- ▽理事 渡邊和人
- ▽理事 内藤佑太
- ▽理事 松尾光平
- ▽理事 河村光将

※上記以外その他理事は変更ありません。

# 2. 後援会役員挨拶

**<石川会長 ご退任の挨拶>**



拝啓 陽春の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、私儀、このたびの総会をもちまして会長を退任することとなりました。後援会発足以来、4期8年間、皆様にはひとかたならぬご厚情をいただき厚くお礼申し上げます。なお、後任会長には副会長の末廣秀樹氏が就任いたしましたので私同様にご支援を賜りますようお願い申し上げます。今後は顧問として、後援会活動に尽力して行きたいと存じますので引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

**<末廣会長 新年度の挨拶>**



陽春の候、皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。宇部興産バドミントン部後援会も皆様のご支援ご協力をおもちまして9年目を迎えることができました。これも一重に会員各位のご支援の賜物と心から御礼申し上げます。石川前会長には8年間に亘り、ご尽力いただき心より感謝申し上げます。この度、後任の後援会会長に末廣秀樹氏が就任いたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。

在職時、総監督として2005年チャレンジリーグ参戦、2009年日本リーグ2部(現S/JリーグII)昇格、2010年山口大会まで指揮をとり、会社退職後の翌年からは後援会を立ち上げ部を見守ってまいりました。

あの感動をもう一度、皆で味わいたいことから「早期のS/Jリーグ昇格」を目標に掲げ、達成に向けた方策等を提言しながら任期中での昇格を目指し、宙を舞いたいと熱望しております。

宇部興産バドミントン部は、全日本実業団大会は9年連続のシード権獲得、またS/JリーグIIも昇格後、連続で上位をキープしています。昨年のS/JリーグIIでは単全勝で新人賞を獲得した藤井勇也、そして単複のキーとなる桐田和樹を軸に各個人の力を高めることができてきました。現時点でのチーム力は上位と遜色ないレベルまで上がってきています。

この機会を捉え、後援会として早期のS/Jリーグ昇格に向け、物心両面からの支援活動に尽力してまいりますので、何卒、皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

**<玉田オーナー>**



新型コロナウイルス感染拡大により全国全ての都道府県に緊急事態宣言が発令され、外出自粛、3密を避ける行動が呼びかけられています。スポーツリーグも開幕が延期され、選手も技術維持に腐心し、また開幕を待ちわびていたファンも気を揉んでいるところです。感染拡大防止と感染者減さらに感染の収束に向けて企業、団体ならびに全ての国民が心を一つにしてこの危機を乗り越えたいと思います。

さて、宇部興産バドミントン部も5月29日開催予定であった中国実業団大会の中止がありまた団体練習することを自粛しているため、選手一人ひとりが自主トレーニングで基礎体力の維持に取り組んでいるところです。2019年度の宇部興産バドミントン部は、S/JリーグIIで4位でした。目標は優勝でしたが、ダブルスで接戦を落とすことがあり、今年度はダブルス力の強化でミスをなくす、フィジカルを強化するなど課題を克服することで優勝することが目標です。現下の状況から6月以降の主要大会の開催も不透明な状況ですが、三重県伊勢市で開催予定のS/JリーグIIに向けて日々精進を重ねることになります。

一方、この4月に宇部興産バドミントン部応援パンフレットが完成し、選手の躍動感あふれるプレーの姿を掲載しました。宇部興産グループならびに後援会の皆さまの熱い声援をお願いするとともに選手の活躍を期待しております。

### <米元監督>



2018年の監督就任以降、勝負の場面での1点が遠く課題の残るシーズンとなっております。その中でも、昨年は4名の新入部員を軸にS/JリーグⅡを戦い抜き、若い選手に経験を積みながらも2年連続でAクラス入りしたことは今後に向けて明るい話題を残せたのではないかと感じております。

今年度は選手・スタッフがどれだけ「自律」して活動に取り組めるかが試される年だと考えております。社会人選手として自律しているのは当たり前だと思われがちですが、今まで体育館にみんなが集まってできていた練習から自宅でのワークアウトが中心となり、多くの選手がやりにくさを感じる状況となっております。

この状況下でいかに選手一人ひとりがあるべき姿に向けて取り組むことができるか、その体制作りが私の使命と考えております。緊急事態宣言下でスポーツ活動は厳しい状況ではございますが、頭を使う＝「ヘッドワーク」の強化期間でもあるとプラスに考えていきたいと思っております。

最後に、オーナーの言葉にもございますが、選手の躍動感あふれるパンフレットを皆様に直接お渡しできる日を楽しみにしております。本年度も引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

### <古川主将>



新年度を迎え後援会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。本年度より主将を務めさせていただくことになりました古川です。

昨今において新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっており、当部においても3月から体育館を使用する練習を自粛する日々が続いています。近々の試合も中止が決まっており、先が見えない状況に不安な気持ちも大きいですが、前主将の「いくばい！やるばい！」の精神を引き継ぎ、「いくっちゃ！やるっちゃ！」の精神で選手一丸となってこの状況を乗り越え、更なるレベルアップをしていきたいと思っております。

今後とも皆様の御指導御鞭撻の程、宜しく申し上げます。

宇部興産バドミントン部後援会会長 末廣 秀樹

[本紙に関するお問い合わせは e-mail :25742u@ube-hp.or.jp](mailto:25742u@ube-hp.or.jp)

〒755-0024 山口県宇部市野原1-2-38  
宇部興産バドミントン部後援会事務局 吉川 直樹